

忙 申 閑

情報の伝達・コミュニケーションの方法も多様化の時代である。相手の表情を感じることなく、一方的に意見を送りつけ、相手の意図を掴むどころか相手の心を傷つけ、誤解を招くこともある。「コミュニケーション」には、「通信する」のほか「意思の疎通を図る」という意味がある。相手の意思を理解しながら会話を図ることがすごく重要な点ではないか。世代を超え様々な人との会話も必要だ。医療界においてはコミュニケーション、伝承が大切である。近頃は「絆」が希薄になっていないだろうか。

新しく入社された方々も、そろそろ職場の環境、動線にも慣れる時期になる。先輩の姿を見て、多くのお客さん、患者さんと接触し社会に奉仕することを学んでほし

い。経営は職員の絶大なる組織力、行動力が必須で、大きな困難を乗り越える覚悟がないとできない。異業種の人材、優秀な人材を発掘し育成する。順風満帆であっても気を抜くことは許されない。先輩諸氏が日々医療に打ち込む姿を確認し、大きく進歩するための心構えや心掛けがないと実力も伸長しないし、反対に不平となる。意志の伝達が不可欠である。また、新しくビジネスを考察するには日頃からの新鮮な観察力が大きく左右する。正確さ、迅速さが重要なポイントになる。

医療では安全の面で、職員同士の会話が必要となる。医療事故の多くは、左右の識別、部位の確認、転落、転倒など確認不足が要因に挙がる。事故防止には電子カルテで情報を共有しながら、複数の職員で確認

絆 きずな

広報委員 大野 良興

し報告するコミュニケーションが有効だ。充実した医療を提供し、患者さんが元気に退院することが医療人の最大の勤めである。

現代はどんな環境にも対応できるよう組織の変革が必要となる。社会の要請に正確に反応し困難な課題に直面してもあらゆる可能性を試行錯誤し、諦めないという執念。職場の役割を明確化し、教育を充実させ、5S（整理、整頓、清潔、清掃、躰）をもう一度振り返り、質の高い医療を提供し、最新の話題を提供する。そのためには中級管理職の育成が大きな課題で、理念、基本方針、歴史、未来への取り組みを徹底的に覚えさせる。公平無私の精神で接し、問題意識の改善に努めることが重要となる。仕事の小さな無駄も一カ月、一年、十

年と積み重なると膨大なコストになる。

新型コロナウイルスの対応はあらゆる災害を思いおこしいつも備えが必要である。一国だけが収束しても収まらない。全世界が対応して初めて収束することができる。国際的に情報を共有し、国際協力も含めてPCR、治療薬、ワクチンを迅速に開発する。国民一人ひとりが自覚し、密集・密閉・密接の3密を避け、社会的距離を保ち、マスクの着用、手洗い励行、消毒薬による清拭の呼びかけ、人との接触を8割減らすことが要請されている。医療現場で勤務する職員、国民の絆に感謝するとともに、「新型コロナウイルス感染症」に打ち勝って世界が平和になることを願望する。“上を向いて歩こう”。